

論文研究要旨

建設業における外国人技能実習生受入れの実態－労働環境整備の重要性

Actual conditions of accepting foreign technical interns in construction industry

要旨

本稿では外国人技能実習制度の課題として、受入れ企業側の労働環境の問題を取り上げた。技能実習生にとっての労働環境をハーズバーグの要因理論と、マズローの欲求五段階理論を下敷きとした分類手法によって技能実習生版のホワイト企業・健康優良企業・人材輩出企業・ブラック企業に分類するためのフレームワークを林(2018)の研究を参考として作成した。その上で、技能実習制度を利用している企業 50 社のサンプルをこのフレームワークに応じて分類をした。加えて、同企業 50 社に林(2018)が作成した企業分類フレームワークに応じ、分類を行った。また、技能実習生版企業スコアの値と、林(2018)が作成した企業スコアの値の相関関係を分析した。この結果として、企業全 50 社のうち 36%の企業が技能実習生版ホワイト企業、8%の企業が技能実習生版ホワイト企業と技能実習生版健康優良企業の境目に位置していた。また、10%の企業が技能実習生版人材輩出企業、6%の企業が技能実習生版人材輩出企業とブラック企業の境目に位置しており、残りの 40%の企業が技能実習生版ブラック企業であると分類された。さらに林(2018)版企業分類の調査項目を利用して、これら 50 社の一般的な企業タイプについても分類を行った。

この結果、本研究で開発した技能実習生版企業分類と、林(2018)版企業分類については相関関係が認められた。また、この結果から考察を深め、技能実習生版ブラック企業および一般のブラック企業の相関については、あくまで技能実習生であろうと一般の社員であろうと「人材」という観点から見た時に両者ともに、「人材」の扱い方に共通点があり、これが相関関係に結びついたと考えられると結論付けた。

キーワード：外国人労働者、外国人研修生・技能実習生、労働環境、受入れ企業